論文

「さすが」の意味・機能に関する考察

周　世超[1]

A Study on the Meaning and Function of "*Sasuga*"

Shichao ZHOU[1]

ABSTRACT

In this paper, I considered the meaning and usage of the Japanese word "*Sasuga*". The following conclusions were obtained.

When "*Sasuga*" modifies a noun predicate in a simple sentence, or modifies an adjective predicate that represents a positive meaning in a simple sentence, or be concurrent with "*Dakeni*" "*Dakeatte*" which is in a reason clause in the complex sentence, it means that "with this thing or person, ~ is as expected." It represents a positive evaluation on the thing or the person.

When "*Sasuga*" modifies a verb predicate in a simple sentence or modifies an adjective predicate that represents a negative meaning, it means that "In this situation, ~ is as expected." It represents a negative evaluation on the situation.

When "*Sasuga*" modifies the subject in a simple sentence, there are two types: "*Sasugano*" and "*Sasugani* + *First personal pronoun* + *Demo*". It means that "Even that person, ~ is as expected." It represents an evaluation on the person.

When "*Sasuga*" is used in a zero conditional of the resultative conditional sentence, or be used in a time clause that represents "at the same time" in a complex sentence, it means that "In this situation, it will finally ~ as expected." It represents an indirect evaluation on the situation.

When "*Sasuga*" is used in a complex sentence which has a coordinate clause, or modifies an adjective predicate that represents a neutral meaning in a simple sentence, it means that "though ~, ~ is as expected." It represents an indirect evaluation on the subject of the sentence which "*Sasuga*" modified.

キーワード　意味・機能，評価，単文，複文

Keywords: meaning and function, evaluation, simple sentence, complex sentence

1.　はじめに

「さすが」は話者の評価をあらわす「評価の副詞」[1)] として知られている。また，「さすが」は「さすが田中さん」，「田中さんはさすがに疲れた」のように，前者はプラス評価をあらわすものとしてとらえることができ，後者はマイナス評価をあらわすものとしてとらえることができる。しかし，具体的にどんな場合にプラス評価をあらわし，どんな場合にマイナス評価をあらわすかについてはまだ明確なルールが示されていない。本稿では，意味論と統語論の観点から「さすが」の意味・用法ついて新たに提案することを試みる。

2.　先行研究の問題点と本稿の立場

「さすが」に関する研究は森田（1980），飛田・浅田（1994），渡辺（2002）に散見される。飛田・浅田（1994: 165–166）では，「さすが」の意味について「①価値を再認識する様子をあらわす。ややプラスよりのイメージ語」，「②予想通りの結果になる様子をあらわす。ややマイナスよりのイメージ語」のように指摘されている。確かに「田中さんはさすがに疲れた」のように，「さすが」が「予想通り」の意味をあらわす場合，マイナス評価をあらわしている。しかし，例 (1)(2) に示すように「さすが」が「予想通り」の意味をあらわしていても，マイナス評価として認め難い場合がある。

[1] 891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1　鹿児島国際大学大学院国際文化研究科博士後期課程

The International University of Kagoshima Graduate School Intercultural Studies Doctor Program, 8-34-1 Sakanoue, Kagoshima 891-0197, Japan

2017年5月26日受付，2017年8月25日採録

(1)さすがにこの時刻になると，大阪市内も道路は空いている。（黒川博行『二度のお別れ』1984）

(2)さすがに8時間台はないが5時間ほどの電話は春夏秋冬に一度ほどある。（姫野カオルコ『愛は勝つ，もんか』2000）

例 (1)(2) における「さすが」の意味はマイナス評価とは言い難い。例 (1)(2) では ,「この時刻」「８時間台」が評価される部分として考えられる。しかし，これらのフレーズには，明確なマイナスの意味が含まれていないため,「さすが」のあらわす意味がプラスなのかマイナスなのかは明確とはいえない。むしろ話者や主体の認識と「さすが」に後続する要素とのインタラクティブによって総合的に判断しなければならない。例 (1)(2) のような例文における「さすが」の意味・用法について，本稿では，間接的な評価[2)]として位置づける。

一方，渡辺（2002: 372–377）では，森田（1980）に基づき，現代語としての「さすが」の基本的な用法を（一）「A はさすがに a だ」,（二）「A も B にはさすがに ā(b) だ」,（三）「さすがの A も B には ā(b) だ」[3)] の三つにまとめられている。タイプ（一）は「A の備わりによる a の実現（主体側の当然の帰結）」の意味をあらわし，タイプ（二）は「a の実現を阻む B の備わりによる ā(b) の実現（場面，なりゆきの当然の帰結）」の意味をあらわし，タイプ（三）は「A の力量の当然の帰結として期待される a が実現しない」の意味をあらわすが,「さすが」の評価は A に集中しているとされている。確かに,「さすが田中さん」のような例文はタイプ（一）に,「さすがに田中さんも疲れた」のような例文はタイプ（二）に,「さすがの田中さんも疲れた」のような例文はタイプ（三）にあてはまる。しかし，実際の用例を観察してみたところ，どのタイプにもあてはまらない用例がある。

(3)いや，羽川は僕の名前なんか知らないだろうけれど……さすがに同学年であることくらいは知ってるよなあ。（西尾維新『傷物語』2008）

(4)彼は物知りな男だったが，さすがに松茸の値段までは分からなかったらしく，不機嫌そうに「高えんだろうな」と呟いてから，傍らで買いつけをしていた小売商のおじさんに尋ねた。（原田宗典『はたらく青年』2002）

(5)流石に僕でもバンジージャンプくらいは知っている。（井上堅二『バカとテストと召喚獣04』2008）

例 (3)(4)(5) における「さすが」は連体修飾語として機能していないため，タイプ（三）ではないように思われる。また，例 (3)(4) では,「さすが」に後続している「同学年であること」「松茸の値段」への「当然の帰結」をあらわすものとしてとらえられるが，渡辺（2002）でいうタイプ（一）の「主体側」でも，タイプ（二）の「場面，なりゆき」でもないため，どのタイプにも属していないといえる。例 (5) は形式上タイプ（二）の「A も B にはさすがに ā(b) だ」に近いではあるが,「さすが」の評価は「バンジージャンプ」に集中しているのではなく,「僕」という「A」に集中していると思われる。この場合の「流石に」は下記の例 (5') のように「さすがの」で置き換えても差し支えないだろう。

(5')さすがの僕でもバンジージャンプくらいは知っている。

例 (3)(4)(5) に示すように, 渡辺（2002）の解釈では「さすがに同学年であることくらい」「さすがに松茸の値段まで」「流石に僕でも」のような意味・用法をカバーすることができない。

本稿では,「さすが」の意味・機能について，先行研究をふまえて，新たに定義する。

(6)「さすが」の意味・機能は「評価」と「予想」の二つに要約される。具体には五つの意味がある。

①「さすが」が単文で名詞述語文を修飾する場合，または単文でプラスの含みがある形容詞を修飾する場合，及び「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文に用いられる場合,「このものだと，やはり～」という意味をあらわす。

②「さすが」が単文で動詞述語文を修飾する場合，または単文でマイナスの含みがある形容詞を修飾する場合,「この状況だと，やはり～」という意味をあらわす。

③「さすが」が単文で主語を修飾する場合,「あのものでも，やはり～」という意味をあらわす。

④「さすが」が一般条件文に用いられる場合，または同時を表す時間節の複文に用いられる場合,「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわす。

⑤「さすが」が等位節の複文に用いられる場合，または単文で中間的な形容詞を修飾する場合,「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわす[4)]。

上記の (6) は本稿の仮説である。以下，3. では単文における「さすが」の意味・用法について名詞述語文を修飾する場合，動詞述語文を修飾する場合，形容詞述語文

を修飾する場合，主語を修飾する場合に分けて考察する。4. では複文における「さすが」の意味・用法について一般条件文の場合，同時を表す時間節の複文の場合，「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文の場合，等位節の複文の場合に分けて考察する。5. では，まとめを行う。

3. 単文における「さすが」の意味・用法

この節では，さらに「さすが」が単文で名詞述語文を修飾する場合，動詞述語文を修飾する場合，形容詞述語文を修飾する場合，主語を修飾する場合に分けて考察し，(6) の仮説について実証する。

3.1. 名詞述語文を修飾する場合

「さすが」が名詞述語文を修飾する場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」[5] へのプラス評価をあらわす。この場合の「さすが」は「さすがは」「さすが」という形で名詞述語文を修飾し，主に話題の人物へのプラス評価をあらわす。

(7)「さすがは令子さんだ」先生が真面目な表情でうなずいた。「その犯人とは，いったい誰なんです？」（五十嵐貴久『土井徹先生の診療事件簿』2008）

(8)さすが歩く社交図鑑。ハウス長の家の財産状況まで把握しているとは，やはりヴェロニカはただものではない。（高殿円『カーリー2 二十一発の祝砲とプリンセスの休日』2006）

(9)「さすがは頭取ですね。何もかもちゃんと見抜いておられる」（山田智彦『銀行 男たちの報酬』1998）

例 (7) における「さすが」は「令子さんだとやはり犯人を特定できる」という意味をあらわし，「令子さん」へのプラス評価をあらわす。例 (8) における「さすが」は「歩く社交図鑑と言われるほどのあの人だと，やはりハウス長の家の財産状況まで把握している」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。例 (9) における「さすが」は「頭取だと，やはり何もかも見抜いている」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

また，話題の人物へのプラス評価以外にも，「さすが」が物や場所などのような名詞述語文を修飾する場合もある。この場合，「さすが」は物や場所へのプラス評価をあらわす。

(10)「なるほど，なるほど。あのゴキブリめの動きを電子頭脳が発見したわけですな。さすがは精巧な電子頭脳だ」（北杜夫『怪盗ジバコ』1974）

(11)驚いたことに，四, 五十台パークしてる車の向こうには，まだまだだだっ広い空間が広がっていた。さすがは王国の駐車場だ。（菊地秀行『トレジャー・ハンター04 エイリアン黙示録』1984）

(12)さすがは新都心・新宿だ。平日の午前中だというのに，けっこう人通りが多い。（山田正紀『ふしぎの国の犯罪者たち』1980）

例 (10) における「さすが」は「この電子頭脳だとやはりあのゴキブリの動きを発見できる」という意味をあらわし，「電子頭脳」へのプラス評価をあらわす。例 (11) における「さすが」は「王国の駐車場だと，やはり広い」という意味をあらわし，「王国の駐車場」へのプラス評価をあらわす。例 (12) における「さすが」は「新都心・新宿だとやはり平日の午前中でも人通りが多い」という意味をあらわし，「新都心・新宿」へのプラス評価をあらわす。

さらに，「さすが」が述語として機能する場合はこのタイプの省略だと思われる。

(13)「上々でした。予定より約四十秒早く，正味九分で作戦の第一段階は完了しました」「そうか。さすがだ。ところで犠牲者は？」（中村正『元首の謀叛』1983）

(14)「分かりましたよ，公共的事業ですね，相手は。電気かガスか鉄道か道路か，それとも自衛隊ですか？」「当たりっ，さすがだねえ」（内田康夫『怪談の道』1996）

(15)「……気づいていたのか。さすがだな，賀茂保憲」（三雲岳斗『カーマロカ 将門異聞』2005）

例 (13) における「さすが」は「君だとやはり予定より早く作戦を完了できる」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。例 (14) における「さすが」は「君だとやはりすぐ答えられる」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。例 (15) における「さすが」は「君だとやはり気づく」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

つまり，「さすが」が名詞述語文を修飾する場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」へのプラス評価をあらわす[6]。「さすが」が述語として機能する場合はこのタイプの省略だと思われる。

3.2. 動詞述語文を修飾する場合

「さすが」が動詞述語文を修飾する場合，「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナ

ス評価をあらわす。「さすが」が単文で動詞述語文を修飾する場合，動詞は主に感情動詞[7]に属している。この場合の「さすが」は主に「さすがに」という形で動詞述語文を修飾している。

(16)そこでボクは，「ゴルフをやりにきてます！」と正直に答えちゃったんです。さすがに先生は呆れていました。（片山晋呉『主役』2003）

(17)「だから俺に手を貸すかわりに，ここを出るため力をあわせようというのか」「馬鹿なことをいうな」志狼はさすがに腹をたてた。（五代ゆう『晴明鬼伝』2003）

(18)遂に竜太の研究授業の日が来た。間に一カ月の夏休みがあったから，生徒を訓練したのは，正味四カ月に過ぎない。竜太はさすがに緊張していた。（三浦綾子『銃口』2001）

例 (16)(17)(18) における「呆れる」「腹をたてる」「緊張する」はいずれも感情動詞である。「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (16) における「さすが」は「この状況だと，やはり先生も呆れた」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (17) における「さすが」は「この状況だと，やはり志狼は腹をたてた」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (18) における「さすが」は「この状況だと，やはり竜太は緊張していた」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。

つまり，「さすが」が単文で動詞述語文を修飾する場合，「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。この場合の動詞は主に感情動詞に属している。

3.3.　形容詞述語文を修飾する場合

この場合はさらに「さすが」がプラスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，マイナスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，中間的な形容詞述語文を修飾する場合の三つに分けて考察する[8]。この場合の「さすが」は主に「さすがに」「さすが」という形で形容詞述語文を修飾している。

「さすが」がプラスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

(19)「さすがに，勘が鋭いな……。別に隠しておく必要のある事じゃないんだが，確かに，私の視力は，かなり悪くなっているよ」（喜多嶋隆『天国からのメール』2001）

(20)「さすがに察しがよろしい。人間界と仙界との間の結界を解いていただきたい」（ろくごまるに『封仙娘娘追宝録04 夢をまどわす頑固者』1997）

(21)さすが器量が大きい。新任刑事に見せ場をつくってやった。（つかこうへい『小説熱海殺人事件』1976）

例 (19)(20)(21) における「勘が鋭い」「察しがよろしい」「器量が大きい」は人の素質をあらわしているため，「さすが」は人へのプラスの評価をあらわす。例 (19) における「さすが」は「勘の鋭い君だとやはり気づく」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。例 (20) における「さすが」は「察しのいい君だとやはり気づく」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。例 (21) における「さすが」は「器量の大きいあの人だとやはり新任刑事に見せ場をつくってあげる」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

また，「さすが」がマイナスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。

(22)「ふっふっふ。万が一はあるだろうが」殷雷は不敵に笑う。言うだけ無駄だと店主は肩をすくめた。さすがに和穂も不服だった。（ろくごまるに『封仙娘娘追宝録07 闇をあざむく龍の影』1998）

(23)「こんだけの人数だぜ。藤田さんもさすがにやべえよ」（伊坂幸太郎『死神の精度』2005）

(24)なぜ本署まで連行されねばならないのか。さすがに不安だった。（三浦綾子『銃口』2001）

例 (22)(23)(24) における「不服」「やべえ」「不安」は状況への評価をあらわしているため，「さすが」は状況へのマイナスの評価になるのである。例 (22) における「さすが」は「この状況だと，やはり和穂も不服だ」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (23) における「さすが」は「この状況だと，やはり藤田さんもやばい」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (24) における「さすが」は「この状況だと，やはり不安だ」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。

さらに，「さすが」が中間的な形容詞述語文を修飾する場合，「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，主語への間接的な評価をあらわす。この場合は対比の意味を含む文脈が必要になる。

(25)髪はさすがに薄い。目も細い。けれど鼻から口に

かけての貫禄はまさに現役の顔である。（上坂冬子『おんなの一人旅』1983）

(26)さすがに未来の夢は少ない。と言うより平凡で起床とともに忘れることが多いせいだ。（高橋克彦『幻少女』2002）

(27)潮風を受けながら栄寿は陽に輝く長崎の町並みを眺めた。さすがに風は冷たい。が，体の芯にはほてりがあった。（高橋克彦『火城』2001）

例 (25)(26)(27) における「薄い」「少ない」「冷たい」は中間的な形容詞である。「さすが」は「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，主語への間接的な評価をあらわす。例 (25) における「さすが」は「鼻から口にかけての貫禄は変わっていないにもかかわらず，やはり髪は薄い」という意味をあらわし，「髪」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「髪は薄い」とのインタラクティブによってマイナス評価をあらわし，間接的な評価といえる。例 (26) における「さすが」は「平凡で起床とともに忘れることが多いにもかかわらず，やはり未来の夢は少ない」という意味をあらわし，「未来の夢」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「未来の夢は少ない」とのインタラクティブによってマイナス評価をあらわし，間接的な評価といえる。例 (27) における「さすが」は「体の芯にはほてりがあったにもかかわらず，やはり風は冷たい」という意味をあらわし，「風」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「風は冷たい」とのインタラクティブによってマイナス評価をあらわし，間接的な評価といえる。この場合，例 (25)(26)(27) における「鼻から口にかけての貫禄はまさに現役の顔である」「平凡で起床とともに忘れることが多い」「体の芯にはほてりがあった」というような対比の意味を含む文脈が必要である。

つまり，「さすが」がプラスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」へのプラス評価をあらわす。「さすが」がマイナスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。「さすが」が中間的な形容詞述語文を修飾する場合，「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，主語への間接的な評価をあらわす。また，中間的な形容詞を修飾する場合，対比の意味を含む文脈が必要になる。

3.4. 主語を修飾する場合

「さすが」が主語を修飾する場合はさらに「さすがの」の場合と「さすがに＋第一人称代名詞＋でも」の場合に分けて考察する。

3.4.1. 「さすがの」の場合

「さすが」は「さすがの」という形で連体修飾語として主語を修飾する場合，「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

(28)「いまのインチキ教えろや。教えるまでこの村は出さんずら」さすがの神崎もカッとした。（つかこうへい『長島茂雄殺人事件』1986）

(29)そのうち前方に見える信号が青から黄色になった。ぐずぐずしていると赤になる。さすがの中山あい子もあせった。（佐藤愛子『冥途のお客』2004）

(30)「僕は疲れているんだ。いちいち口を出すのはやめてくれないか」つっかかってきたのは君だろう？ さすがの茂央も憤りを感じた。（山田悠介『パズル』2007）

例 (28) における「さすが」は「神崎でもやはりこの状況になるとカッとする」という意味をあらわし，「神崎」へのプラス評価をあらわす。例 (29) における「さすが」は「中山あい子でもやはりこの状況になるとあせる」という意味をあらわし，「中山あい子」へのプラス評価をあらわす。例 (30) における「さすが」は「茂央でもやはりこの状況になると憤りを感じる」という意味をあらわし，「茂央」へのプラス評価をあらわす。

また，「さすがの」が動詞述語文の否定形と共起する場合，「さすが」は「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，話題の人物へのプラス評価をあらわす。

(31)「いや，貴さまもだいぶ，巧者になったな。さすがの大蔵も，漆桶までは気がつかなかった」（吉川英治『宮本武蔵07』1990）

(32)昭和二十年春の日本軍にはおそらく老朽船しか残っていまい。このことはさすがの宮脇さんも分からなかった。（北杜夫『私はなぜにしてカンヅメに大失敗したか』2012）

(33)みちるは答えなかった。さすがの佐貫もみちるの「初恋」の話までは聞いていない。（三上延『シャドウテイカー1 黒の彼方』2004）

例 (31) における「さすが」は「大蔵でも，やはり漆桶までは気がつかない」という意味をあらわし，「大蔵」へのプラス評価をあらわす。例 (32) における「さすが」は「宮脇さんでも，やはりそのことは分からない」とい

う意味をあらわし，「宮脇さん」へのプラス評価をあらわす。例 (33) における「さすが」は「佐貫でも，やはりみちるの『初恋』の話までは聞いていない」という意味をあらわし，「佐貫」へのプラス評価をあらわす。

さらに，「さすが」が思考動詞の肯定形と共起する場合，「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，主語へのマイナス評価をあらわす。

(34)「……さすがの俺でもわかるよ」（高月紅葉『仁義なき嫁8～短編集2～』2015）

(35)この問いの意味は，さすがの俺でもわかる。（坂本司『切れない糸』2009）

(36)今度は，さすがの春香も気付いたみたいだった。（五十嵐雄策『乃木坂春香の秘密 第03巻』2005）

例 (34) における「さすが」は「俺でも，やはりこの状況になるとわかる」という意味をあらわし，「俺」へのマイナス評価をあらわす。例 (35) における「さすが」は「俺でも，やはりこれぐらいがわかる」という意味をあらわし，「俺」へのマイナス評価をあらわす。例 (36) における「さすが」は「春香でも，やはりこの状況になると気付く」という意味をあらわし，「春香」へのマイナス評価をあらわす。

3.4.2. 「さすがに＋第一人称代名詞＋でも」の場合

「さすが」に後続する成分が第一人称代名詞と「でも」の場合，「さすがの」と同じく，「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，話者への評価をあらわす。

(37)さすがに僕でもこの言葉は分かります！（『週刊文春』第45巻2003）

(38)流石に僕でもバンジージャンプくらいは知っている。（例 (5) を再掲）

(39)さすがに僕でも，彼女がなにを言いたいのか理解できた。（風見周『殺×愛3―きるらぶ　THREE―』2006）

(40)「さすがに俺でも無理だ。約束をすっぽかした相手の家にまで行って，家族のいる前で謝るなんて ... 案外，姉ちゃんのことマジなのかも」（一文字鈴『初恋の彼と春を待つ頃』2015）

例 (37) における「さすが」は「僕でも，やはりこの言葉ぐらいは分かる」という意味をあらわし，「僕」へのマイナス評価をあらわす。例 (38) における「さすが」は「僕でも，やはりバンジージャンプくらいは分かる」という意味をあらわし，「僕」へのマイナス評価をあらわす。例 (39) における「さすが」は二通りの解釈ができる。一つ目は「僕でも，やはりこの状況になると彼女がなにを言いたいのかを理解できる」という意味をあらわし，「僕」へのマイナス評価をあらわす。二つ目は「この状況だとやはり僕でも彼女がなにを言いたいのか理解できる」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。例 (40) における「さすが」も二通りの解釈ができる。一つ目は「俺でも，やはりできない」という意味をあらわし，「俺」へのプラス評価をあらわす。二つ目は「この状況だとやはり僕でも無理だ」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす[9]。

つまり，「さすが」が主語を修飾する場合は「さすがの」と「さすがに＋第一人称代名詞＋でも」という二つの形式がある。「さすが」は「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，主語への評価をあらわす。「さすが」に後続する動詞が思考動詞の肯定形である場合，話題の人物へのマイナス評価をあらわす。それ以外の場合は話題の人物へのプラス評価をあらわす。

4. 複文における「さすが」の意味・用法

この節では，「さすが」が複文に用いられる場合の意味・用法について考察し，(6) の仮説について実証する。実際の用例を観察してみたところ，「さすが」は主に同時を表す時間節の複文，順接条件節の複文の一般条件文，「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文，等位節の複文に用いられる[10]。

4.1. 同時を表す時間節の複文の場合

「さすが」が同時を表す時間節の複文に用いられる場合，「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわし，状況への間接的な評価をあらわす。この場合の「さすが」は「その場合でないとそうはならない」という含みもある。

(41)墓に手をかけたとき，さすがに僕の手はふるえた。（伊佐千尋『検屍M・モンローのヘア』1985）

(42)大きな通りに出た時には，さすがに大きく空気を吸い込んだ。（奥山繁幸『フツーのツアーの愉しみ方』1998）

(43)階段を上るときには，さすがに青木も肩を貸した。（貫井徳郎『天使の屍』2000）

例 (41) における「さすが」は「やはり墓に手をかけたときになるとやっと手はふるえるようになった」という意味をあらわし，「墓に手をかけたとき」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「僕の手はふるえた」とのインタラクティブによってマイナス評価をあらわし，間接的な評価といえる。「さすが」は「その場合

でないと手はふるえない」という含みがある。例 (42) における「さすが」は「やはり大きな通りに出た時になるとやっと大きく空気を吸い込める」という意味をあらわし，「大きな通りに出た時」への間接的な評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「大きく空気を吸い込んだ」とのインタラクティブによってプラス評価をあらわし，間接的な評価といえる。「さすが」は「その場合でないと大きく空気を吸い込めない」という含みがある。例 (43) における「さすが」は「やはり階段を上るときになるとやっと青木も肩を貸した」という意味をあらわし，「階段を上るとき」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「青木も肩を貸した」とのインタラクティブによってプラス評価をあらわし，間接的な評価といえる。「さすが」は「その場合でないと肩を貸してくれない」という含みがある。

つまり，「さすが」が同時を表す時間節の複文に用いられる場合，「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわし，状況への間接的な評価をあらわす。この場合の「さすが」は「そうでない場合はそうはならない」という含みがある。この含みがあるかどうかは単文で動詞述語文を修飾する場合の「さすが」との違いにもなりうる。

4.2. 一般条件文の場合

「さすが」が順接条件節の複文の一般条件文に用いられる場合，「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわし，状況への間接的な評価をあらわす。「さすが」は「その場合でないとそうはならない」という含みがある。

(44)切腹だお役御免だという騒ぎになれば，さすがに，俺のような町場の小役人の耳にも入るからな。（宮部みゆき『孤宿の人（上）』2005）

(45)この時刻になると，さすがに人通りが少なくなる。（吉行淳之介『犬が育てた猫』1987）

(46)ここまで来るとさすがに日本人は珍しい存在になる。（なだいなだ『パパのおくりもの』1974）

例 (44) における「さすが」は「やはり切腹だお役御免だという騒ぎになるとやっと俺のような町場の小役人の耳にも入る」という意味をあらわし，状況への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「俺のような町場の小役人の耳にも入る」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。「さすが」は「その場合でないと俺のところには届かない」という含みがある。例 (45) における「さすが」は「この時刻になるとやっと人通りが少なくなる」という意味をあらわし，「この時刻」という意味をあらわし，状況への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「人通りが少ない」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。「さすが」は「この時刻でないと人通りが多い」という含みがある。例 (46) における「さすが」は「やはりここまで来るとやっと日本人が珍しい存在になる」という意味をあらわし，状況への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「日本人が珍しい存在になる」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。「さすが」は「ここまで来ないと日本人は珍しい存在にならない」という含みがある。

つまり，「さすが」が一般条件文に用いられる場合，「さすが」は「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわし，状況への間接的な評価をあらわす。この場合の「さすが」は「その場合でないとそうはならない」という含みがある。この含みがあるかどうかは単文で動詞述語文を修飾する場合の「さすが」との違いにもなりうる。

4.3. 「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文の場合

「さすが」が「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文に用いられる場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」へのプラス評価をあらわす。

(47)さすがに声楽部だけあって，彼女は綺麗な声をしていた。（三雲岳斗『レベリオン 第01巻』2000）

(48)柳田は，さすがに高級官僚の出身だけあって，万事にそつがなかった。（井沢元彦『ＧＥＮ『源氏物語』秘録』1995）

(49)「細川君のところの別荘は，さすがに建築家の父上のご設計だけあって，ヨーロッパの田舎家風のなかなか凝った造りらしいよ，もう一度，軽井沢へ行って来たらどう？」（山崎豊子『華麗なる一族 下』1973）

例 (47) における「さすが」は「声楽部の彼女だとやはり綺麗な声をしている」という意味をあらわし，「彼女」へのプラス評価をあらわす。例 (48) における「さすが」は「高級官僚の出身の柳田だとやはり万事に落ち度がない」という意味をあらわし，「柳田」へのプラス評価をあらわす。例 (49) における「さすが」は「建築家の父上のご設計のあの別荘だとやはりヨーロッパの田

舎家風の凝った造りである」という意味をあらわし，「細川君のところの別荘」へのプラス評価をあらわす。

つまり，「さすが」が「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文に用いられる場合，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」へのプラス評価をあらわす。

4.4.　等位節の複文の場合

「さすが」が等位節の複文に用いられる場合，「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，「さすが」の修飾を受ける文の主語への間接的な評価をあらわす。また，等位節には対比をあらわす等位節，逆接をあらわす等位節，譲歩をあらわす等位節，前置きをあらわす等位節の複文がある。コーパスを調べたところ，「さすが」は主に対比をあらわす等位節の複文，逆接をあらわす等位節の複文に用いられる。

(50)さすがに8時間台はないが5時間ほどの電話は春夏秋冬に一度ほどある。（例 (2) を再掲）

(51)いや，羽川は僕の名前なんか知らないだろうけれど……さすがに同学年であることくらいは知ってるよなあ。（例 (3) を再掲）

(52)卒業式も近づくと，雪は深いがさすがに陽ざしが春めいてくる。（三浦綾子『ひつじが丘』1980）

例 (50)(51)(52) はいずれも対比をあらわす等位節の複文である。例 (50) における「さすが」は「5時間ほどの電話はあるにもかかわらず，やはり8時間台はない」という意味をあらわし，「8時間台」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「8時間台はない」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。例 (51) における「さすが」は「僕の名前なんか知らないにもかかわらず，やはり同学年は知っている」という意味をあらわし，「同学年であること」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「羽川が同学年であることを知っている」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。この場合，話者の考え方によって「さすが」の評価に揺れが生じる。例えば，話者が知ってほしくないと思う場合はマイナス評価をあらわすが，話者が知ってほしいと思う場合はプラス評価をあらわす。例 (52) における「さすが」は「雪は深いにもかかわらず，やはり陽ざしが春めいてくる」という意味をあらわし，「陽ざし」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「陽ざしが春めいてくる」とのインタラクティブによってプラス評価をあらわし，間接的な評価といえる。

(53)彼は物知りな男だったが，さすがに松茸の値段までは分からなかったらしく，不機嫌そうに「高えんだろうな」と呟いてから，傍らで買いつけをしていた小売商のおじさんに尋ねた。（例 (4) を再掲）

(54)今年は暖かい冬だそうだが，さすがに市内は真冬がつづいている。（荒巻義雄『「新説邪馬台国の謎」殺人事件』1989）

(55)いままでわりに淡々と語っていた金田一耕助だが，さすがに最後の一句には力が入った。（横溝正史『金田一耕助ファイル17 仮面舞踏会』1976）

例 (53)(54)(55) はいずれも逆接をあらわす等位節の複文である。例 (53) における「さすが」は「彼は物知りな男にもかかわらず，やはり松茸の値段まではわからない」という意味をあらわし，「松茸の値段」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「彼は松茸の値段がわからなかった」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。例 (54) における「さすが」は「今年は暖かい冬にもかかわらず，やはり市内は真冬がつづく」という意味をあらわし，「市内」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「真冬がつづいている」とのインタラクティブによってマイナス評価をあらわし，間接的な評価といえる。例 (55) における「さすが」は「いままでわりに淡々と語っていたにもかかわらず，やはり最後の一句には力が入る」という意味をあらわし，「最後の一句」への評価をあらわす。「さすが」は話者の考えと「最後の一句には力が入った」とのインタラクティブによって評価が決まるため，間接的な評価といえる。

つまり，「さすが」が等位節の複文に用いられる場合，主に対比をあらわす等位節の複文と逆接をあらわす等位節の複文に分布している。この場合の「さすが」は「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，「さすが」の修飾を受ける文の主語への間接的な評価をあらわす。

5.　おわりに

以上のように，本稿では，「さすが」の意味・機能について分析してきた。先行研究で及ばなかった「さすがに＋第一人称代名詞＋でも」形式と複文における「さすが」の意味・用法，及び「さすが」の評価と構文的条件との関係を明らかにした。分析の結果をあらためてまとめると次のようになる。

①「さすが」が単文で名詞述語文を修飾する場合，ま

たは単文でプラスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合，及び「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文に用いられる場合には，「このものだと，やはり～」という意味をあらわし，その「もの」へのプラス評価をあらわす。

②「さすが」が単文で動詞述語文を修飾する場合，または単文でマイナスの含みがある形容詞述語文を修飾する場合には，「この状況だと，やはり～」という意味をあらわし，状況へのマイナス評価をあらわす。

③「さすが」が単文で主語を修飾する場合，「さすがの」と「さすがに＋第一人称代名詞＋でも」という二つの形式がある。この場合の「さすが」は「あのものでも，やはり～」という意味をあらわし，話題の人物への評価をあらわす。この場合，「さすが」に後続する述語文が思考動詞の肯定形の場合は主語へのマイナス評価をあらわし，思考動詞の肯定形以外の場合は話題の人物へのプラス評価をあらわす。

④「さすが」が一般条件文に用いられる場合，または同時を表す時間節の複文に用いられる場合には，「やはりこの状況になるとやっと～」という意味をあらわし，状況への間接的な評価をあらわす。この場合の「さすが」は「そうでない場合はそうはならない」という含みがある。この含みがあるかどうかは単文で動詞述語文を修飾する場合の「さすが」との違いでもある。

⑤「さすが」が等位節の複文に用いられる場合，または単文で中間的な形容詞述語文を修飾する場合には，「～にもかかわらず，やはり～」という意味をあらわし，「さすが」の修飾を受ける文の主語への間接的な評価をあらわす。

⑥「さすが」の構文的条件と評価の関係をまとめると表1のようになる。

本稿の③～⑥は先行研究を超えたものである。また，本稿では考察に及ばなかった「さすが」の使用条件と「さすが」の評価性のメカニズムについても注目する必要があり，それを今後の課題としたい。

謝辞

本論文の作成にあたり，鹿児島国際大学国際文化研究科のマクマレイ・デビッド先生には，英語のアブストラクトの作成においてご指導を頂きました。心より感謝いたします。

表1　「さすが」の構文的条件と評価の関係

構文的条件			評価の種類
単文	名詞述語文の修飾		ものへのプラス評価
	形容詞述語文の修飾	プラスの含みがある形容詞	ものへのプラス評価
		マイナスの含みが形容詞	状況へのマイナス評価
		中間的な形容詞	「さすが」の修飾を受ける文の主語への間接的な評価
	動詞述語文の修飾		状況へのマイナス評価
	主語の修飾	思考動詞肯定形	ものへのマイナス評価
		思考動詞肯定形以外	ものへのプラス評価
複文	一般条件文		状況への間接的な評価
	同時を表す時間節の複文		状況への間接的な評価
	「だけに」「だけあって」で原因・理由をあらわす複文		ものへのプラス評価
	等位節の複文		「さすが」の修飾を受ける文の主語への間接的な評価

注

1)「評価の副詞」は渡辺実（1996）の pp138–141を参照されたい。

2) 本稿でいう「間接的な評価」とは，ものへのプラス評価でも状況へのマイナス評価でもなく，具体的な文脈と話者の考えに依存しないと，判断し難い評価のことを指す。

3) A はある素質・力量の持ち主であり，a はその素質なり力量なりの具体的な発現である。a は A の備わりの極めて自然な発現として，順当という評価を受けている。B と b も同じ意味である。具体的な A，a，B，b の意味は渡辺（2002: 373）を参照されたい。

4)「さすが」の意味の仮説における「やはり」は「予想」の意味をあらわす。「この状況だと」「このものだと」は状況やものへの「評価」の意味をあらわす。また，⑤の意味は渡辺（2002: 378）の通時的分析の（甲）の意味と同じ傾向ではあるが，現代にはこのような使い方がないとされている。しかし，コーパスを調べたところ，このような用例が数多く見られるため，本稿の仮説の一つとして取り上げているのである。

5) 本稿でいう「もの」は人を指す以外も，物や場所を指す場合もある。

6) 本稿では，「さすが田中さん。こんなこともわからないのか」のような皮肉の意味が含まれる用例を本研究の対象外とする。

7) 本稿で取り扱う動詞の分類は工藤（1995）の pp73–78を参照されたい。

8) 本稿で取り扱う「プラスの含みがある形容詞」「マイナスの含みがある形容詞」「中間的な形容詞」は飛田良文・浅田秀子（1991）を参考にし，まとめたものである。また，本稿でいう形容詞は形容動詞，いわゆるナ形容詞も含まれている。

9) 例 (37)(38) は一つの解釈しかできないに対し，例 (39)(40)

は二通りの解釈ができる理由について，「さすが」に後続する述語文の意味と関係していると考えられるが，紙幅の関係で本稿ではふれないことにする。

10) 本稿で取り扱う複文の分類は日本語記述文法研究会（2008）を参照されたい。本稿で取り扱っている複文以外にも，「さすが」が補足節と名詞修飾節に用いられる場合もある。しかし，補足節と名詞修飾節は「さすが」の意味・用法に影響をもたらすものではないため，本研究では取り扱わないことにする。また，それ以外の複文について筆者所持の資料と現代日本語書き言葉均衡コーパスを含め，18273の用例の中でいずれも100例以下である。ある現象として取り上げるほどの数に達していないため，本研究では対象外とする。

文献

飛田良文・浅田秀子（1991）.『現代形容詞用法辞典』東京：東京堂出版.

飛田良文・浅田秀子（1994）.『現代副詞用法辞典』東京：東京堂出版.

工藤真由美（1995）.『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現』東京：ひつじ書房.

森田良行（1980）.『基礎日本語』東京：角川書店.

日本語記述文法研究会（2008）.『現代日本語文法6 第11部 複文』東京：くろしお出版.

渡辺実（1996）.『日本語概説』東京：岩波書店.

渡辺実（1997）.「難語「さすが」の共時態と通時態」『上智大学国文学科紀要』，14：3–30.

渡辺実（2001）.『さすが！日本語』東京：筑摩書房.

渡辺実（2002）.『国語意味論』東京：塙書房.

用例出典

現代日本語書き言葉均衡コーパス（http://nlb.ninjal.ac.jp/）国立国語研究所（計4838例）

筆者が所持している資料（1960年代以後出版されたもの，計13399例）